

令和4年度伊勢原市行財政改革推進委員会第1回会議録

〔事務局〕 企画部経営企画課

〔開催日時〕 令和4年7月29日（金）午前10時00分から午前12時00分まで

〔開催場所〕 伊勢原市民文化会館 練習室2

〔出席委員〕 7名

鈴木靖夫（会長）

青柳貞徳（副会長）

大川 要

大杉 あや子

河原 啓子

中村 隆志

引田 道人

〔事務局職員〕 5名

山室好正（企画部長）

酒井哲也（企画部行政経営担当部長）

桐生尚直（企画部参事兼公共施設マネジメント課長）

山口博巳（経営企画課行政経営担当課長）

都竹新平（経営企画課行政経営係長）

〔公開可否〕 公開

〔傍聴者数〕 なし

《議事の経過》

1 議題

- (1) 第5次行財政改革推進計画 令和3年度の取組結果について
  - ①第5次行財政改革推進計画 令和3年度の取組結果について
  - ②次期行財政改革推進計画（仮）の策定検討に向けた職員アンケートの結果概要について
- (2) 公共施設等総合管理計画の改訂（令和4年度）及び（仮称）公共施設再配置プランの策定に向けた作業の進め方・スケジュール等について
- (3) 公共施設の見直しに向けた市民アンケート結果概要及び今後の市民参加の予定について

2 その他

※質疑応答・意見等は別紙1のとおり

## 1 議題

### (1) 第5次行財政改革推進計画 令和3年度の取組結果について

- ① 第5次行財政改革推進計画 令和3年度の取組結果について
- ② 次期行財政改革推進計画(仮)の策定検討に向けた職員アンケートの結果概要について

#### [意見]

- ・ 職員アンケートについて、対象職員数が700名程度に対して有効回答数が184と回答率が1/4程度だが、自らの職場に関わることなので、職員全体の意識を高めて、より多くの職員に意見を出してもらうように工夫する必要がある。回答数が増えてくれば、市全体の効率的な行財政運営により繋がってくると思われる。
- ・ 職員アンケートの内容を見ると、日ごろ感じていること、的を射てポイントとなるようなことなど、職員が問題意識を持って行財政運営に取り組んでいることが分かり、安心した。  
一方で、職員アンケートには触れられていない課題として、スピード感のある対応が挙げられる。課題解決に向けては、先送りを避け、出来るところから優先度を付けた上で、ひとつひとつ結論を出していきながら、スピード感を持って取り組む意識が必要である。その結果、多少の手戻りが生じたとしても、改善を重ねながら前に進めていければよい。こうしたスピード感というファクターを、しっかりと今後の行財政改革の取組にも入れていただきたい。
- ・ 民間企業から学ぶことは多い。有効かどうかの検証は必要だが、どんどん民間の手法を取り入れて行財政運営に活かしてもらいたい。その際は、民間のスピード感についていくことも重要である。行政が取り入れた時点で時代遅れな手法となっていたら、意味がない。

### (2) 公共施設等総合管理計画の改訂(令和4年度)及び(仮称)公共施設再配置プランの策定に向けた作業の進め方・スケジュール等について

#### [質問]

#### [回答]

1	無作為抽出による市民ワークショップを開催するとあるが、無作為抽出の方法は。	住民基本台帳から年代別に無作為抽出する。 ワークショップの参加者は、30名程度を予定している。
2	地区別住民意見交換会について、普段から公共施設を使用している方は、関心が高いので出席すると考えられるが、そうした方々以外の声を聞くことも重要である。なるべく多くの方々に出席してもらうような日程になっているのか。	多くの方々に御出席いただけるよう、9月3日から10月8日までの道灌まつり(10/1・2)を除く毎週土曜日の午前・午後のいずれかに、7地区別に住民意見交換会を開催する予定としている。
3	現在策定中の(仮称)第6次総合計画と内容の整合は図られているのか。	現在、(仮称)第6次総合計画の策定作業と整合性を図りながら、公共施設の見直し作業を進めている。 ただし、公共施設等総合管理計画は計画期間が30年間の長期であるため、まずは(仮称)第6次総合計画と計画期間を合わせた今後10年間で何が必要かを見極めた上で、(仮称)公共施設再配置プランの策定を

		進めていく。
4	公共施設の見直しを進める上で、市の財政状況や今後の公共施設の展望などの情報を、市民にしっかりと伝えていくことが重要である。例えば広報いせはらで、行財政改革の取組や公共施設の見直しに関する特集号などを発行して、市民への周知を強化してはどうか。	現時点で広報いせはらの特集号の発行は予定していないが、市民への情報発信は重要であり、市民に関心を持っていただくため、ホームページやSNSなど、様々な媒体で定期的に情報発信の強化を図っていく。

[意見]

<ul style="list-style-type: none"> <li>今回の公共施設等総合管理計画の改訂や(仮称)公共施設再配置プランの策定を契機として、これまでの公共施設の管理における課題点・反省点（施設利用者との対話不足、モニタリング評価の必要性、建替えのための基金が無い等）を明確にし、それらを踏まえた上で、統廃合も含めて抜本的に見直しながら、新しい時代にあった今後の公共施設のあり方の検討を市民とともに進めていくことが必要である。</li> </ul>
--

(3) 公共施設の見直しに向けた市民アンケート結果概要及び今後の市民参加の予定について

[質問]	[回答]
1 市民アンケートの結果は、どのように公表するのか。	市ホームページで公表する。 また、今後、秋に予定している市民ワークショップ、地区別住民意見交換会の場においても、出席者に説明する。
2 公共施設の見直しは、今後10年先の将来を見越した課題であることから、今後予定されている市民ワークショップ、地区別住民意見交換会の出席者については、これからの時代を担う20歳～30歳の若い世代にも多く出席してもらえそうな仕掛けや声掛けなどの努力をしてほしい。	市民ワークショップについては、出席者の年齢構成のバランスも考慮して、事前に20歳代から60歳代までの各年代から市民を無作為抽出し、参加者を募集する。 テーマについても、子育て世代の関心があるようなものも含め、幅広い世代に関わるものを検討している。 地区別住民意見交換会は、若い世代やお勤めの方でも参加しやすいように、土曜日の午前・午後で開催する。 あわせて、広報紙やいせはらくらし安心メールなどにより、日程についても周知する。
3 市民アンケートについて、まず、市の原案を示した上で、意見を聴取する方法がよかったのではないかと。回答者はなかなか長期的な視野に立った回答をすることは難しく、どうしても目先の意見が多くなってしまおうと思われる。	今回実施した市民アンケートについては、まずは公共施設問題の周知を図るとともに、総論としての見直しの取組の方向性について、幅広く市民の意向を把握し参考とするため、事前に市の考え等を示すことはしていない。一方で、9月以降に開催する市民ワークショップや地区別住民意見交換会では、8月中に取りまとめる予定の市の考え方(たたき台)を示した上で、御意見をいただく予定である。
4 市民ワークショップや地区別住民意見	市民ワークショップや地区別住民意見

<p>交換会において出された市民意見に対する市の対応がわかるように、意見と対応を整理して公表することが重要である。</p>	<p>交換会でいただいた御意見を整理し、後日、公表する予定である。</p>
---	---------------------------------------

[意見]

- ・ 地区別住民意見交換会はオープン参加で行うとのことだが、市の進め方に対して様々な意見が出ると思われる。総論が賛成でも、各論になると否定的な意見や反対意見も多くなるのではないかと。受益者負担や財源確保の観点も含めて、公共施設のあり方の見直しを進めていくことは、将来の伊勢原市にとって必要な取組だということを、どのように市民に納得し理解していただくかが重要である。
- ・ 公共施設の見直しを考える際に、少子高齢化の進展や安全・防災意識の高まり、カーボンニュートラル、市民ニーズの多様化など、時代の背景を踏まえた市の考え方を整理し、柱を明確にして説明していくことが重要である。

2 その他

令和3年度第3回会議(令和4年3月28日開催)において、時間の都合上、会議内に議論できなかった以下の議題について、後日、委員から提出された意見等に対し、市から回答を行った。

- 公共施設等総合管理計画の令和4年度改訂に向けて
  - ・ 施設類型毎の基本的な見直しの方向性(素案)について
  - ・ 公共施設の施設類型毎の基本的な見直しの方向性(素案)の主要課題について

以上